

事業所における自己評価の結果（公表）

それいゆ・すてっぷ（児童発達）

		チェック項目	工夫している点 課題や改善すべき点等	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容 又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	・個別レッスンを法人内で行っているため、連携をとりながら併用することができる。	
	2	職員の配置数は適切である	・人数に対しての職員の数は良いと思うが、支援が必要な子が多いので、それに見合った人数だともっと良い。 ・子どもの人数＝職員の配置数ではなく、子どもの支援に対して適切数かどうかだと考える。	利用者の方の発達や状態、活動内容に応じて職員配置を決めていく。
	3	生活空間は、本人に分かりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	・今現在はバリアフリー化を必要としている対象がないので緊急性がない。 ・2階になっているため、階段しかないが、現状は身体が不自由な子は属していないので、問題はないが、バリアフリーではないため、今後、利用者によって、改善すべき点ではある。	
	4	生活空間は、清潔で心地よく過ごせる環境になっている。また、子どもたちの活動に合わせた空間となっている	・毎日、使用后、消毒掃除を行っている	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	・ミーティングを密に行い連携をとっている。	
	6	保護者等向けの評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の移行等を把握し、業務改善につなげている		
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともにその結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	・細かいところを自分自身、確認できていない点がある（ホームページや会報など） ・今後実行していく。	ホームページの更新をすすめている。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	・第三者ではないが、保護者や他者からの希望や要望などには話し合いをしている。 ・第三者による外部評価を受けていない。	今後は第三者による外部評価を行うことを検討していく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	・外部の研修などに意欲的に参加している。	
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析したうえで、児童発達支援計画を作成している		
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	・ケース会議を細かめにひらき、個人記録も記入し、興味・関心・傾向・気質等を情報を共有できている。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	・スタッフ全員で意見を出し、話し合いを行い、計画をたてている。	

適切な支援の提供	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている		
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている		
	15	活動プログラムが固定しないよう工夫している	季節の行事や、あそびを取り入れながら1か月ごとに計画を立てている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している		
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	・遅刻や早退、体調不良、欠席からの登園、当日の活動内容など、確認している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	・毎月、月ごとに記録帳をつけ、活用している。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	・スタッフ間で常に現状を把握をするように話をしている。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしいものが参画している		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を送っている	・現在対象児が在籍していない。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	・現在対象児が在籍していない。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	・保育所等訪問のスタッフより、報告を受けたり、情報交換したり、支援内容の確認、理解を図っている。 ・親さんを通して新しい環境への対応、学校等と訪問、面談したりして連携をとっている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	・親さんを通して新しい環境への対応、学校等と訪問、面談したりして連携をとっている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や障害のない子どもと活動する機会がある	・課外活動を通して交流の場を考えている。	

	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		
	30	日頃から子ども状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	・普段よりフィードバックの時間を大切にしている。気になる点などがあつたら、個々に声をかけ、個別で面談なども行っている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		
保護者への説明責任等	32	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っている		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のわらい及び支援内容と、これに基づき制作された「児童発達支援」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている		
	34	定期的に、保護者からの子育て悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	・普段よりフィードバックの時間を大切にしている。気になる点などがあつたら、個々に声をかけ、個別で面談なども行っている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあつた場合に迅速かつ適切に対応している		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		
	38	個人情報の取り扱いに十分注意している		
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		現在は地域の方を招待する行事は行っていないが今後できるように検討している。
	非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	・感染症について説明をし、対応方法も話をしている。 ・マニュアルは作成しているが、保護者には周知がされていないため、書面等にて周知する必要がある。
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	・避難訓練を毎月行っている。	
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している		
44		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づき対応がされている	・現在対象児がいない。	
45		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	・ヒヤリハットは回覧して、全員周知しているが、事例集は作成していない。	事例集を作成する。

46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている		
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		